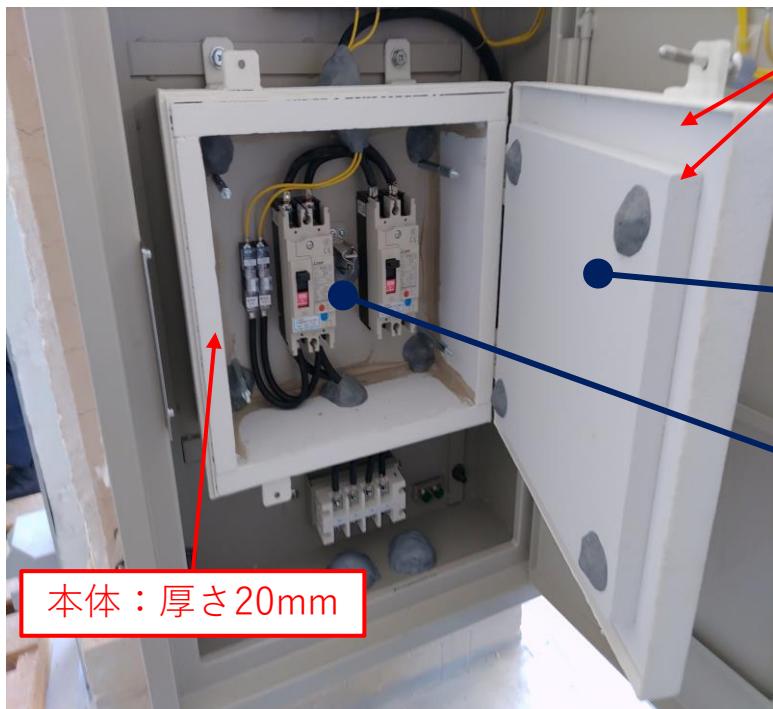


一種耐熱形配電盤等の耐熱性能比較

JSIA

耐熱性能1型（現行品）と耐熱性能2型（追加仕様品）の一種耐熱形配電盤等の比較として

1. 断熱ボックスの厚みを増し、断熱強度を高めることで、840度耐熱試験において、断熱ボックス内温度を105度以内に収めることにより、二種耐熱形機器類の使用が可能となります。
2. 二種耐熱形機器類の使用により、現行盤と比べて調達期間を短縮でき、お客様への貢献が可能です。



	耐熱性能1型（現行品）	耐熱性能2型（追加仕様品）
断熱BOXの構造 ^{a)}	扉：厚さ16mm 本体：厚さ16mm 素材：繊維混入けい酸カルシウム板	扉：厚さ40mm 本体：厚さ20mm 素材：現行品と同じ
収納機器類	一種耐熱形機器 280°C	二種耐熱形機器 120°C

注^{a)} 断熱ボックスの構造は「耐熱形配電盤等型式認定の手引」2025年版より
附属書にある「一種耐熱形分電盤105°C型（供試品）専用形露出式（T）記入例」の構造
例である。